

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
問い合わせ 市広報秘書課 ☎ 43・8113



大規模災害に備えて

全市一斉防災訓練と火災防備訓練



▲真剣な表情で新聞紙のスリッパを作る作元優斗さん

▲完成した新聞紙のスリッパ

震度6強の地震の発生を想定して、11月10日に全市一斉防災訓練を行いました。防災行政無線による放送とサイレン、エリアメールを配信し、各家庭や自治会、郷づくりなどの地域ごとに、独自の訓練に取り組みました。

福間郷づくりでは、市、県と共同で防災フェスタを実施。自衛隊による炊き出しや備蓄品の展示、朝倉市の農産品の直売などがありました。また、段ボールベッドの組み立てや新聞紙スリッパを作ると、ポイントがもらえる仕組みになっていて、来場した子どもたちはポイント集めに奔走していました。小学2年生の作元優斗さんは「新聞紙スリッパの作り方を覚えたいし、ポイントをたくさん集められて、今日一日楽しかった」と笑顔で話してくれました。

同日夜には火災防備訓練が行われ、市消防団が、宗像地区消防本部や古賀市消防団などと連携して、火災発生を想定した訓練を行いました。

海も山も豊かになるように

県立水産高校が生物多様性アクション大賞特別賞受賞



▲郷育カレッジで竹魚礁をつくる参加者

県立水産高校は「山や森を豊かにすることは海を豊かにすること」という考えで、竹林を整備して海に必要な養分を正常に流すようにし、海も山も豊かにする活動「豊かな海づくりproject」に取り組んでいます。竹の有効活用や小学校で児童と一緒に竹魚礁を作る授業を行うなど、幅広い活動が次世代につながる。と評価され、環境省が主催する生物多様性アクション大賞の特別賞「セブン・イレブンの特別賞」を受賞しました。

福津大会の代表が総務大臣賞を受賞

全国クラウド活用大賞



▲決勝大会で企画説明する前田さん

情報通信技術を活用し、経営改革に成功した事業者を表彰する全国クラウド活用大賞九州予選会が9月に福津市で開催されました。これを勝ち抜いた「株式会社掃除でつくるやさしい未来」が決勝大会に出場し、見事、総務大臣賞を受賞。スマートフォンを活用することで事業所を構えない、効率的な事業活動などが評価されました。代表の前田雅史さんは「全国のママスタッフのおかげ」と従業員への感謝を語っていました。

地産地商、はじめました

地域商社「福津いいざい」が始動



▲関係者と紅白の縄を握り、笑顔で3つの輪を持つ石谷さん(右から4番目)

福津の農水産品の市内外へ流通し、そこにいい人材が関わり、そこでのいい経済が生まれるように」という願いが込められています。

式典では、テープカットや鏡開きなどを行うのが一般的ですが、この日は祝い結びの儀として紅白の縄を引き合い、ロゴマークである3つの輪に結びという独自の方法で実施。

代表理事の石谷誠さんは「農業、漁業に携わる皆さんが安心して仕事に取り組めて、事業者が福津のいい物がすぐ届くようになったと言っていただけに、うにがんばりました」と話していました。

20年以上にわたる支援

キューヘンが「ゆのか祭り」の売り上げの一部を寄付



▲寄附金を受け取るサンテラスの利用者

松林や海岸の清掃など、地域貢献活動に積極的に取り組む株式会社キューヘンが、11月22日、社会福祉法人サンテラス福祉会に「ゆのか祭り」の売り上げの一部を寄付しました。サンテラス施設長の池浦英明さんは「新しいグループホームの建設のために、ありがたく使わせていただきます」と感謝の気持ちを伝えていました。

地域一体の取り組みが評価されました

勝浦地域学校協働本部が文部科学大臣から表彰



▲表彰状を持つ太田校長と西田さん(左から2番目)

勝浦小学校の勝浦地域学校協働本部が文部科学大臣から表彰されました。人形浄瑠璃などの多様な郷土学習や地域貢献活動など、地域一体の学校運営が評価されました。学校と地域を結ぶ地域コーディネーターの一人、西田明日香さんは「子どもの育ちをみんなで共に支え、それが地域の活性化につながるとうれしい」と話していました。